



**真壁小が通算13回目の交通安全
子供自転車全国大会に出場**

8月1日(水)、東京ビックサイトで開催された「第47回交通安全子供自転車全国大会」に、茨城県代表として真壁小学校チームが、通算13回目(内3回全国制覇)の出場を果たしました。

同校チームは、ひたひたなか市で開催された「交通安全子供自転車茨城県大会」で見事優勝し、全国大会出場の手配が完了しました。当日、会場には各都道府県の代表47チームが参集。結果は、残念ながら上位入賞はできませんでしたが、チームの持てる力を十分発揮した大会になりました。

**ファミマカップ県大会で
真壁女子バレースポ少が準優勝**

ファミリーマートカップ・第32回全日本バレーボール小学生大会茨城県大会で、真壁女子バレーボールスポーツ少年団が準優勝の好成績を収めました。

同少年団は33チームが参加した県西大会予選リーグを準優勝で通過。県大会では、38チームのトーナメント戦を4試合勝ち抜き決勝戦に進めました。結果、フルセットの末惜しくも敗れ、全国大会への出場は叶いませんでしたが、小高珠来キャプテンは、「今度は、秋の関東大会、全国スポーツ少年団大会出場を目指し頑張ります。」と力強く話していました。



ファミマカップ茨城県大会で準優勝の成績を取った真壁女子バレーボールスポーツ少年団の皆さん



**テントに泊まったよ!!
谷貝小で「サマーキャンプ」**

夏休みに入った直後の7月21日・22日の両日、谷貝小学校校庭で「サマーキャンプ」が開催されました。

谷貝地区コミュニティスクールの一環のこの事業は、地域と学校が様々な体験機会を子ども達に提供することで、「生きる力」を育んでもらおうと毎年開催されているもので、児童とその保護者など約160人が参加しました。

子ども達は、友達と協力してのテント設置やカレーライスづくり、キャンプファイアーを楽しむなど、一泊の共同生活を通して夏休みの良い思い出をつくりました。

岩瀬地区の児童が北学校給食センターの見学とピザ作りを体験

夏休み期間中、岩瀬地区の児童とその保護者が参加した「きゅうしよくセンター調べ隊」が実施され、桜川市北学校給食センターの見学とピザ作り体験をしました。

これは、同センターが「調理の様子や衛生管理の状態を知ってもらい、もっと給食を身近に感じてもらう。」と毎年開催しているもので、当日は、107人が参加。施設や調理の様子を見学後、ピザ生地へのソース塗りやチーズ乗せなどのピザ作りを体験しました。参加した子ども達からは「ピザソース塗り体験が楽しかった。」「来年もまた参加したい。」などの声が聞かれました。



参加した児童たちは真剣な表情で、ピザ生地にピザソースを塗りチーズなどを乗せて完成させました。

**交通安全協会・安全運転管理者
協議会からのぼり旗が寄贈**

桜川地区交通安全協会(市村栄一朗会長)と同地区安全運転管理者協議会(白田唯雄会長)から、市内16の小中学校に「交通安全のぼり旗」が寄贈されました。

これは、全国的に小中学生の登下校時における交通事故が多発していることから、市内でも子ども達が巻き込まれる悲惨な交通事故を未然に防ごうと80本ののぼり旗が寄贈されたものです。

ドライバーに注意喚起を促す文字などが入ったのぼり旗は、各小中学校周辺の通路に設置されました。



桜川地区交通安全協会と同地区安全運転管理者協議会から、石川教育長へのぼり旗が手渡されました。



**命の大切さを学ぶ
岩瀬東中で「いのちの講演会」**

被害者支援センター栃木事務局長の和氣みち子さんを講師に迎え、岩瀬東中学校で茨城県・茨城県警察主催による「いのちの講演会」が開催されました。

長女を交通事故で亡くされた和氣さんの被害者遺族としての悲しい心境や体験談の講演に、参加した284人の生徒は、いのちの大切さや被害者支援の意義について学びました。

講演を聴いた生徒たちは、「報道される交通事故の裏側には、被害者の悲痛の気持ちがあることを知りました。」と話していました。

**藍への想いをセタに寄せて
「真壁藍保存会10周年記念展」**

つくば市の「市民ギャラリー」と「さくら民家園」で、真壁藍保存会(多田郷会長)が、設立10周年を記念した藍染作品展を開催しました。

会場には、「日の出紋」の浴衣や「雁木紋」の型染めのタペストリーなど約100点が展示。さらに、その作品に会員50人が藍染めの想いを天の川に託した作品が添えられるなど、10年の歩みを感じさせる美しい藍の世界に、来場者のみなさんは心を和ませていました。また、12月15日(土)には、真壁伝承館で真壁藍の作品展が予定されています。ぜひ、ご来場ください。



つくば市の市民ギャラリーなどでは真壁藍を活かした様々な作品が展示され、来場者の目をひいていました。



**J A西瓜部会が県庁で黒こだま
スイカ「誘惑のひとみ」をPR**

桜川市で栽培する黒こだまスイカ「誘惑のひとみ」の出荷最盛期を迎えた7月下旬、JA北つくばこだま西瓜部会の生産者の皆さんが、茨城県知事を訪問し「誘惑のひとみ」をPRしました。

このスイカは、平成18年から試験栽培を始め、平成20年からこのブランド名で本格販売を展開しています。皮が黒っぽく、糖度が13度以上と甘みが強いうえに、身が詰まっていてシャリ感があるのが特徴です。「今年のスイカも出来がよく自信を持って食べていただけます。」と生産者の皆さんは話していました。